

介護実習や情報 設備充実新校舎

東予総合高 落成式

4月に開校し、建設中だった東予総合高校（西条市周布）の新校舎が完成し2学期が始まった1日、落成式があった。主に総合学科とライフデザイン学科の教室があり、生徒らは新しい校舎での学びに期待を膨らませた。

校舎は東予高のプール跡地に建設。鉄筋コンクリート4階建て、延べ床面積は

3960平方メートルで建物内は県産材を使用、校舎は上履きに履き替える。普通教室

のほか、介護用ベッドを備えた介護実習室、高画質大型プリンターがある情報教室、学科の枠を超えて使用する実習教室などがある。



●完成した東予総合高の校舎●介護用ベッドなどがある介護実習室
〓いずれも1日午前、西条市周布

総事業費は約19億円。新校舎は2日から使用する。

落成式には関係者約60人が出席し、玄関前でテープカットをして完成を祝った。檜垣知美校長は「新校舎を拠点として、学校の魅力をさらに高める学びを実践したい」と述べた。

式の後、総合学科1年渡辺李々愛さん(16)は「設備が充実している新校舎で勉強に専念したい。今からわくわくしている」と目を輝かせていた。

同校は県教育委員会の県立学校振興計画に基づき、同市の小松高、丹原高、東予高が再編統合して新たな小松高とともに誕生。総合学科のほか、アグリデザイン、機械電気、建築土木、ライフデザインの4専門学科がある。

(武田泰和)